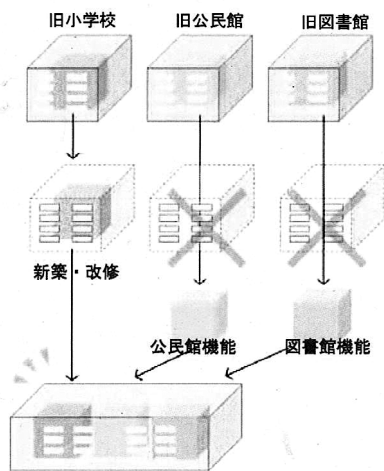


# 人口減少社会の 公共施設の あり方とは

名古屋市の「公共施設白書」



「アセットマネジメント」とは資産の管理のことで、自治体においては老朽化してきた道路や橋、公共施設などをどのように維持・管理するかということが問題となっています。福岡市をはじめ多くの自治体では、公共施設の「長寿命化」を図り、維持管理費の平準化を図ってきました。

しかし名古屋市では「長寿命化」だけでは限界があると判断し、公共施設の「総量削減」を検討しています。高齢化、少子化、人口減少が進み、市財政が増える見通しはない状況を踏まえ、議会や市民と広く協議するために「公共施設白書」が作られました。

「公共施設白書」では全施設の建造物耐久調査の結果をはじめ、施設規模、利用状況、維持管理費用など施設情報、人口推移等の社会状況や財政状況、アセットマネジメント計画の説明など、**議会や市民に正確な情報を提供**しています。市役所内の縦割りを廃し、市全体で総量削減を進める公共施設政策を打ち立て、市民ニーズとの整合性を図るために**全市的な合意形成**の取り組みを始めています。小学校改修時に公民館と図書館を合築することで施設数を削減した志木市の事例を参考に、「施設主義」から「機能主義」への転換を図っています。福岡市にも強く提案していきます。

## 区民の参加と協働で 地域の課題を解決

川崎市の「区民会議」



地方自治法が6月に改正され、より自立した「総合区」を設置できるようになりました。高齢化、少子化、人口減少、さらに財政悪化が進み、国が一律のサービスを提供できなくなつた今、地域の状況に合わせた問題解決ができるよう**市民と行政の協働を進め、「都市内分権」と「市民自治」**を確立していくことが重要となつてきています。そこで先進的な川崎市を調査しました。

成は公募市民、地域団体推薦、区長推薦の20名以内の委員で構成。**公募委員は委員総数の2割以上**とし、人数の割り振りは区ごとに判断。区選出市議会議員や県議会議員は参与として参加し助言が出来ます。区民会議の課題については、各区の業務からのものおよび委員から提起されるものから整理されます。必要に応じて部会が設置され、部会の調査結果については区民会議に報告され審議されます。1期2年間で調査審議を行い、区長へ答申します。区長は答申を受け、予算措置を含め必要な措置を講じます。

このような川崎市の区民会議の事例は大いに参考になり、**市民と行政の協働を進めた事例**とし、福岡市にも求めていきます。